

南清第 20 号
平成 18 年 12 月 15 日

「八ヶ岳周辺のごみ問題を考えるネットワーク」

灰溶融炉を考える会

呼びかけ人 河西 章 様

同 細川 宏子 様

同 小林 峰一 様

八ヶ岳なんでも気にする若者の会

代表 篠崎 美和 様

八ヶ岳周辺のごみ問題を考える女性の会

呼びかけ人 遠藤 誠子 様

諏訪南行政事務組合
組合長茅野市長矢崎和広

質問状への回答について

当組合が計画する焼却灰の溶融処理施設整備事業に関し、平成 18 年 12 月 5 日付にて提出のありました質問状への回答を次のとおりいたします。

質問 1

建設予定地の近くには糸魚川―静岡構造線の若宮断層(活断層)があります。信州大学則学長の小坂共栄教授(構造地質学)と一緒に予定地周辺を踏査した結果、糸魚川―静岡構造線と同じ方向に走る断層をいくつも確認しました。建設予定地一帯は、近くにある活断層に関連した断層地帯の可能性があります。組合は、予定地周辺の地質調査を実施していますか。すでに予定地周辺の地質調査を実施している場合は、その結果を教えてください。まだ実施していない場合は、なぜ調査を行わないのか理由を教えてください。

<回答>

最初に、計画施設の概要についてご説明いたします。建設予定地の面積は、約 2,000・(約 600 坪)です。処理能力(「金属等の溶融不適物を除去するための前処理装置」に投入する量)は、24 時間で 15 トン(比重 1 として約 15 立方メートル)で、1 時間当たりでは 625kg(ドラム缶で約 3 本分)となります。

溶融炉の大きさは、表面溶融方式の場合では、ドラム缶で約 1 本分(200 リットル)の灰を入れて溶融していきます。炉内に入れられた灰は、バーナーによって表面が約 1,300 度に熱せられて少しずつ溶けていき、その溶けた分量だけ前処理装置から灰が補充されるといった仕組みです。

さて、当組合では施設の計画にあたりましては、地震等の災害及び不測の事態の発生に備え、施設が安全に停止できるシステムをはじめとする安全安心を第 1 としたシステムを採用するとともに、建築物につきましても重要度係数又は用途係数といわれる耐久性を目標値とする耐震設計を行い、通常の建築物よりも強度のある設計をいたしますので、現段階では、ご質問をいただきました調査につきまして、実施しなければならないと判断するに至っておりません。

質問 2

計画されている灰溶融施設から大気中に排出される物質の基準値についてお尋ねします。高温処理を行う溶融施設では人体に有害な水銀、鉛、ひ素、クロム、カドミウムなどの重金属類が大量に気化し大気中に排出される危険性があります。また、ダイオキシンよりも毒性が強いダイオキシン類似物質(ニトロ多核芳香族炭化水素、臭素化ダイオキシン類など)も排出される危険性があります。これら、重金属類及びダイオキシン類似物質に問する排出基準を設けていますか。

<回答>

これまで4回開催しました住民説明会においてご説明させていただいております公害防止自主基準並びに国が定める各種基準を遵守してまいります。

質問3

コストについてお尋ねします。全国の溶融施設を含む焼却施設の建設コストを調べてみると1t当たり5000万円くらいになります。計画されている灰溶融施設の建設コストは、1t当たり1億円から1億5000万円と非常に高いのですが何か特別な理由があるのでしょうか。また、年間3億円くらいかかるとされている維持管理費の中には、消耗品(バグフィルター、炉底、出さい口など)の費用が含まれていますか。含まれていない場合は、消耗品として年間どれくらいの費用を見込んでいますか。

<回答>

当組合では、総合評価競争入札の導入を予定しており、灰溶融施設のイニシャルコスト(建設費)、ライフサイクルコスト(運転費、維持管理費)、導入する溶融方式及び機種につきましてはこの入札方法により決定する予定です。

「非常に高いのですが何か特別な理由があるのでしょうか。」とのご質問に関しましては、現在、灰溶融施設の入札を実施しておらず、導入する溶融方式や機種につきましても未だ決まっていない段階ですので、施設建設に要する額が確定する段階でご質問いただければと思います。

なお、ご質問の中で述べておられます建設コスト1t当たり1億円から1億5000万円という金額は、当組合実施計画に計上されている計画総事業費2,224,214千円を、施設の処理能力である15トンで除して得た額と思われるのですが、実施計画における総事業費には、施設の建設に要する費用のほか、旧焼却施設の解体費用、各種調査委託費用、ごみ処理基本計画等の策定費用、その他この事業に関する費用のすべてが含まれますので、全国その他施設の建設コスト(イニシャルコスト)と比較する際におきましてはご留意いただければと思います。

また、ライフサイクルコストには、施設の運転に要する費用や維持管理に要する費用のほとんどが含まれますので、ご質問の「消耗品(バグフィルター、炉底、出さい口など)」も当然に含まれることとなります。

質問4

スラグについてお尋ねします。pH依存性溶出試験の結果でも示されている通り、酸性雨の影響で、路盤材や埋め戻し材などに使われたスラグから鉛などの重金属が染み出て、土壤汚染、地下水汚染を起こす危険性があります。汚染の可能性を見据えて、組合が生産したスラグが最終的にいつ、どこで、どれだけの量、どういう風に使われたかと言った記録を取る計画はありますか？また、万一組合が生産したスラグによる土壤汚染、地下水汚染が発見された場合、どういう責任の取り方を考えていますか？

<回答>

国が定める溶融スラグの JIS 規格につきましては、信頼のおけるものと考えており、JIS 規格に起因する事象に関しましては、JIS 規格を定めた国が保障するものであると考えております。

また、当組合が販売する溶融スラグ製品は、JIS 規格品として市場に流通することが考えられますので、最終消費者及びその使用形態等につきまして当組合で把握するということは現段階では想定しておりません。

以上

()ご質問は原文のとおり記載させていただいております。